

戦前期日本のポスター製作についての『レディーズ・ホーム・ジャーナル』という存在

田島奈都子

戦前期の日本人図案家は、国内外のさまざまなものを参照しながら広告を製作していたが、アメリカを代表する婦人向け雑誌である『レディーズ・ホーム・ジャーナル』も、そのように活用されていた一つであった。事実、日本国内に当時から所蔵されている、1915～41年に編集発行された分を見ただけでも、同誌に掲載された広告を翻案とした日本の作品は、ポスターを中心に50点以上見つかり、ここからはそれらの製作を担った日本の図案家や印刷会社が、同誌を格好の「ネタ帖」としていたことがわかる。残念ながら、戦前期の日本においては、他者の作品を無断で用いる行為が常態化しており、こうしたことは戦時期にも大いに見られた。ただし、どこから何を選び、どのように活用するかにも、一定のセンスや才能、技術が必要である以上、そのような作品を頭ごなしに否定することも適切ではなく、芳しくない事象を含めた事実の再検証・再評価が求められる。